

1. 科目名 (単位数)	介護家政・環境論 (2単位)		3. 科目番号	SNMP3105
2. 授業担当教員	杉山 憲江			
4. 授業形態	講義、聞き取り調査の発表、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>介護の現場においては、介護技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。</p> <p>そこで本授業では生活支援の意義や目的の理解に重点を置き、家庭生活の意義・生活経営・家庭管理・家庭経済について知識を深めていく。</p> <p>さらに、介護の専門家の基礎として、食生活における課題として生活と食事・身体機能と栄養・食品の成分管理・安全性、衣生活における課題として被服の役割と機能・素材と品質表示・洗濯と管理・高齢者や障害者に適した被服、住生活では住居の役割と機能・生活空間・住居の安全・快適な室内環境などについて基本事項を習得し、要介護者とその家族にとって具体的にどんな支援が必要なのか考察しながら、具体的に身に付けていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 要介護者とその家族の家庭生活、要介護者と地域・社会のあり方、消費生活についての知識を獲得する。</li> <li>2. 高齢者・要介護者の栄養摂取など食生活における支援を理解し説明できる。</li> <li>3. 衣生活における被服の役割・管理方法、要介護者に必要とされる被服の機能・被服環境についての知識を獲得し、説明できる。</li> <li>4. 要介護者の住生活について必要とされる住環境の要件について習得できる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1 「高齢者の人生や生活について (衣生活・食生活・住まいの視点から) 昔の生活・今の生活」 高齢者理解を目的として、身近な高齢者の聞き取りを行い、レポートを作成し、発表しあう。</p> <p>課題2 各項 (生活支援・食生活支援・衣生活支援・家事支援・居住環境) の学習後、確実な知識理解の定着を図るため確認テストを行う。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規、2019年。</p> <p>【参考書】 1. 居宅・グループホームにおける簡単おいしい介護食—基礎知識とレシピ 200(第2版) 第1出版 2. 東京商工会議所編『福祉授環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』2014年。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者とその家族の家庭生活、要介護者と地域・社会のあり方、消費生活についての知識を獲得したか。</li> <li>・高齢者・要介護者の栄養摂取など食生活における支援を理解し説明できるか。</li> <li>・衣生活における被服の役割・管理方法、要介護者に必要とされる被服の機能・被服環境についての知識を獲得し、説明できるか。</li> <li>・要介護者の住生活について必要とされる住環境の要件について習得したか。</li> </ul> <p>○評定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的参加 30%</li> <li>・聞き取りレポート・発表内容 20%</li> <li>・期末試験 (知識確認まとめテスト) 30%</li> </ul>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>要介護者とその家族の生活を支援する上で必要とされる専門的知識や技術の獲得をめざす授業をともに創り上げたいと願っています。介護の専門家として人間性や自己研鑽に励み、積極的な態度での授業参加を期待します。さらに疑問点は随時質問し、出席面での自己管理、授業課題に対して積極的に取り組んでください。聞き取り学習ではテーマを明確にし、聞き取ったことから時代背景などを調べ考察して自分の言葉で原稿を作成し、発表することを通して学びあいを期待します。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの説明 (学習の目的・内容・評価など) 高齢者の生活理解と学びに対する思いを話し合う。 課題提示 (課題目的・聞き取り方・テーマの決め方・発表法などの説明)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。	
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見直しを持つ。	
第2回	第1章生活支援の理解 生活支援とは何かディスカッションを通してアプローチの仕方を考えていく。	事前学習	教科書第1章第1節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント (生活の構成要素) について知識理解を図っておく。	
第3回	第1章2節 ICF の視点 生活支援の基本的な考え方について ICF の視点などからディスカッションを通して学びあう。	事前学習	教科書第1章第2節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント (プロとしての生活支援) を掴み、知識理解を図っておく。	
第4回	生活支援と介護予防、(高齢者・障害者の生活) 演習1-1 「確認テスト1」生活支援	事前学習	教科書第1章第3節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント (支援における予防) を掴み、知識理解を図っておく。	
第5回	第3章家庭生活の理解 (高齢者・要介護者のくらしの実際1) 高齢者の家庭生活・家庭経済の理解と必要な知識を学ぶ	事前学習	教科書第3章第1節 pp. 194 ~216を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	確認テスト「生活支援」を見直し間違っていたところ再確認し、知識理解を図っておく。	

第 6 回	第 5 章 自立に向けた家事の介護 自立した家事（高齢者・要介護者のくらしの実際 2） 食生活の基本知識の獲得 1 栄養素と効果と高齢との関わりについての理解	事前学習	教科書第 5 章第 1 節 pp. 216 ～222 読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	家庭生活にかかわる基本知識を「生活支援技術・家政」の授業実習とあわせ栄養素の効果と高齢との関わりについて理解の確認を図る。
第 7 回	食生活の基本知識 2 食品の保存・規格表示・安全性 家庭生活と食事 「確認テスト 2」食生活支援	事前学習	食生活資料を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	確認テスト「食生活」を見直し間違えていたところを再確認し、知識理解を図っておく。
第 8 回	衣生活の基本知識 被服の役割と機能 被服の素材、繊維製品の取り扱い、表示記号の理解、 高齢者・障害者の被服の特徴について学ぶ。 「確認テスト 3」衣生活支援	事前学習	衣生活資料を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	家庭生活にかかわる基本知識を「生活支援技術・環境」の授業実習とあわせ高齢者の被服にかかわる基本知識の理解の確認と繊維製品の取り扱いや表示記号の知識理解を図っておく。
第 9 回	家事支援における介護技術 1 家事支援の意義と目的についての理解を深める。	事前学習	教科書第 5 章第 2 節 pp. 223～235 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通して家事支援のあり方を考え、まとめることができる。
第 10 回	家事支援における介護技術 2 家事の介護 一般的な家事と介護職が行う家事の違いを考え、家事支援のあり方を学ぶ。 演習 6－1	事前学習	教科書第 5 章第 3・4 節 pp. 236～258 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	学習したことを踏まえ、介護職としての家事支援をまとめておく。
第 11 回	家事支援における介護技術 3 調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て・買い物における支援技術について学ぶ。 「確認テスト 4」家事支援	事前学習	前時の授業内容を基に家事支援における具体的な介護技術をワークシートにまとめ提出できる準備をする。
		事後学習	家事支援技術を具体的に理解し、自分の日常生活において習熟を図る。
第 12 回	第 2 章 居住環境の整備 居住環境の整備 1（住まいの整備のための基本技術） 段差・スペースなどの確保について	事前学習	教科書第 2 章第 1 節居住環境の整備の意義と目的 pp. 32～80 に目を通して 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント住まいの役割と機能を考え、知識理解を図る。
第 13 回	居住環境の整備 2（住居の役割と機能） 生活に即した安全快適な住まいについて 演習 7－1， 7－2	事前学習	教科書第 2 章 PP. 35～生活空間・室内環境を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント（住居の役割）を掴み知識理解を図る。
第 14 回	居住環境の整備 3（福祉住環境について） 「確認テスト 5」居住環境	事前学習	参考資料・教科書第 2 章第 4 節 5 節安心して快適な生活環境づくり pp. 56～70 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	福祉住環境について基本知識の理解の確認と確認テストの復習をする。
第 15 回	高齢者・要介護者のくらしの実際（衣・食・住生活環境の現状と課題）聞き取り・調べから発表	事前学習	課題 1 についてそれぞれの計画に基づいて聞き取りを実施しておく。誤字脱字などがなければ推敲して提出する。
		事後学習	発表会を通して知ったこと学んだことを基に高齢者理解を深める。
期末試験			